

第十八條 審議ノ經過並審定事項ハ特ニ定ムル所ニ依ル場合ヲ除クノ外之ヲ發表スルコトヲ得ス
 第十九條 審査委員ニハ相當ノ報酬ヲ支給スルコトヲ得

第四章 經費

第二十條 本部ノ經費ハ特別會計豫算ノ定ムル所ニ依ル
 第二十一條 豫算ハ部長之ヲ調製シ會長ニ報告スヘシ會長ハ之ヲ定時總會ニ提出シ議決ヲ經ルコトヲ要ス但シ大正十五年度及大正十六年度ノ豫算ニ付テハ臨時總會ヲ以テ定時總會ニ代フルコトヲ得
 第二十二條 本部ノ經費ハ健康保險ニ關スル目的以外ノ用途ニ使用スルコトヲ得ス
 第二十三條 現金ハ役員會ニ於テ指定シタル銀行ニ部長ノ名義ヲ以テ預入ス
 第二十四條 決算ハ部長之ヲ調製シ會長ニ報告シ次ノ定時總會ニ於テ其ノ認定ヲ求ムルコトヲ要ス

附則

第二十五條 本規程第五條ノ規定ニ依ル役員及第十條ノ規定ニ依ル審査委員ニシテ大正十五年十二月ノ臨時總會ニ於テ選舉又ハ委嘱セラレタル者ノ任期ハ大正十七年 月ノ定時總會迄トス
 第二十六條 本規程ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ役員會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ定ム
 第二十七條 本規程ハ總會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス此ノ場合ニハ會則第 條ヲ適用ス

十四 郡市、區醫師會健康保險特別會計規程

第一條 東京府醫師會健康保險規程ノ定ムル所ニ依リ政府ノ管掌スル健康保險ノ醫療引請分擔ノ爲メ特別會計ヲ設置シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ東京府醫師會交付金、積立金ノ繰入金及積立金ヨリ生スル利子、借入金、寄附金及雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ、借入金ノ償還金及其ノ利子、一時借入金ノ利子、事務所費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第三條 本會計ニ於テ決算上剩餘金ノ生シタルトキハ積立ツヘシ
 本會計ニ不足ヲ生シタルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スヘシ

第四條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スルタメ必要アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

第五條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ一定ノ銀行ニ之ヲ預入ルルコトヲ得

第六條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スヘシ

第七條 本會計ニ關スル豫算及決算ハ毎年本會計ノ定時總會ニ提出スヘシ

第八條 本會計ノ年度ハ毎年四月一日ヲ以テ始マリ翌年三月三十一日ヲ以テ終ル其ノ出納ハ翌年六月三十日ヲ以テ閉

鎖ス

第九條 前各條ノ外本規定ノ施行上必要ナル事項ニ關シテハ本會計規程ヲ準用ス

第十條 本規程ハ總會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス此ノ場合ニハ會則第 條ヲ適用ス

十五 健康保險組合トノ診療契約ニ於ケル報酬額様式

第一號式 (人頭手當式)

(政)

(何々)健康保險組合(日本)醫師會ノ引請ケタル診療ニ對シ支拂フヘキ毎月分ノ報酬額ハ金七圓四十二錢六厘七毛ノ十二分ノ一ニ相當スル金額ニ其ノ月末日現在ニ於ケル被保險者ノ總數ヲ乘シテ得タル額トス

前項ノ報酬ハ毎月十日迄ニ前月分ヲ支拂フモノトス

第二號式 (定額式)

(定)

(何々)健康保險組合カ(日本)醫師會ノ引請ケタル診療ニ對シ支拂フヘキ毎月分ノ報酬額ハ日本醫師會健康保險診療報酬點數計算規程ニ依ル一點ノ單價ヲ金二十錢トシ之ニ毎月被保險者ノ診療ヲ爲シタル保險費ノ請求ニ係ル總點數ヲ乘シテ得タル額トス

前項ノ報酬ハ毎月二十五日迄ニ前月分ヲ支拂フモノトス

第三號式 (時價式)

(時)

(何々)健康保險組合カ(日本)醫師會ノ引請ケタル診療ニ對シ支拂フヘキ毎月分ノ報酬額ハ當該道府縣醫師會ニ於テ日本醫師會健康保險診療報酬點數計算規程ニ依リ政府ノ管掌スル被保險者ノ診療報酬トシテ毎月保險費ニ分配スヘキ一點ノ單價ニ被保險者ノ診療ヲ爲シタル保險費ノ請求ニ係ル總點數ヲ乘シテ得タル額ト其ノ額ノ百分ノ六ニ相當スル額トヲ合算シタル額トス但シ一點ノ單價金十五錢ニ滿タサルトキハ金十五錢トシ一點ノ單價金二十五錢ヲ超ユルトキハ金二十五錢トス

前項ノ報酬ハ毎月二十五日迄ニ前月分ヲ支拂フモノトス

第四號式 (二割五分減額式)

(入院ヲ除クモノニ適用ス)(二五減)

(何々)健康保險組合カ(日本)醫師會ノ引請ケタル診療ニ對シ支拂フヘキ毎月分ノ報酬額ハ金五圓五十七錢ノ十二分ノ一二相當スル金額ニ其ノ月末日現在ニ於ケル被保險者ノ總數ヲ乘シテ得タル額トス
前項ノ報酬ハ毎月十日迄ニ前月分ヲ支拂フモノトス

十六 健康保險組合ノ醫療組織ニ關スル件

健康保險組合ノ醫療組織ニ就テハ、大體左記方法ニ依ルヘキ旨、社會局ヨリ通牒ヲ發セリ

健康保險組合ノ醫療組織ニ關スル件

一 健康保險組合其被保險者ノ診療ヲ爲スニ適當ナル組合專屬ノ診療機關ヲ有シ、又ハ工場若クハ事業場附屬ノ診療機關ヲ利用シ得ル場合ニ於テハ、其工場又ハ事業場ニ寄宿セル被保險者及ヒ其工場又ハ事業場ニ近接シテ住居スル被保險者ニ付テハ、其診療機關ニ依リ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得ルコト、此場合ニ於テ特ニ専門的診療ヲ要スルトキ、又ハ被保險者ヨリ正當ノ事由ニ因ル請求アリタルトキハ、組合專屬ノ診療機關又ハ工場若クハ事業場附屬ノ診療機關以外ノ醫師又ハ齒科醫師ノ診療ヲ受ケ得ルヤウ組織スルコト

健康保險組合專屬ノ診療機關又ハ工場若クハ事業場附屬ノ診療機關アル場合ニ於テモ通牒スル被保險者ニ付テハ其數及地域的分布狀況等ヲ參酌シ、別ニ一般醫師又ハ齒科醫師ニ就キ任意ニ診療ヲ受ケ得ルヤウ、其診療機關ヲ組織スルコト

二 健康保險組合其被保險者ノ診療ヲ爲スニ適當ナル專屬ノ診療機關ヲ有セス、又ハ工場若クハ事業場附屬ノ診療機關ヲ利用シ得サル場合ニ於テハ、被保險者ハ一般醫師又ハ齒科醫師ニツキ、任意ニ醫師又ハ齒科醫師ヲ選定シ、其診療ヲ受ケ得ル様診療機關ヲ組織スルコト

三 被保險者其歸郷地ニ於テ療養ヲ爲ス場合ニモ、現實ナル療養ノ給付ヲ受ケ得ル爲メ、被保險者多數出身シタル地方ニ在リテハ、可成其地方一般ノ醫師及齒科醫師ニ付キ、診療ヲ受ケ得ル様豫メ組織シ置クコト

十七 健康保險組合ノ醫療組織ニ就テ

(日本醫師會)

健康保險法ニ依ル保險給付中、其ノ主要ナルモノハ療養ノ給付ヲアツテ、コノ療養ノ給付ハ到底醫師ノ手ヲ煩ハサネハナラヌ。一言ニ括約スレハ健康保險ナルモノハ醫師ヲ度外ニオイテハ所詮成立セズ又其ノ目的ヲ達スルコトノ出來ヌモノナ、健康保險ニ於ケル保險者(政府又ハ健康保險組合)ト被保險者ト醫師トハ互ニ密接ナル三角關係ヲ成シテ居ル。而モ飽クマテ信任ヲ基調トシタ正シキ三角關係ヲアラネハナラヌ。日本醫師會トシテハ夙ニ此點ヲ考慮シ、健康保險法ノ醫療組織ヲ如何ニスレハヨイカトイフコトニ關シ、一定ノ方針ヲ案出シテ政府當局ニモ屢次建議シタノチアル。ソシテ這回政府ノ管掌スル被保險者ノ診療ニ關シテハ一切本會ノ手テ之ヲ引請クルコトトシ政府ト本會トノ間ニ契約カ成立シタノチアル。コノ成立シタ契約ノ根本方針ハ即チ「團體自由選擇主義」ノ採擇トイフコトテアル。コノ主義コソ後ニ多少ノ説明ヲ加フルカ保險者ニトリテハ保險經濟ノ安定法トナリ、被保險者ニトリテハ醫療ヲ受クル自由ノ確保トナリ、醫師ニトリテハ診療上ノ機會均等トナル譯テ之カ甘ク運用サルレハ世界無比ノ醫療組織トシテ誇リ得ルコトニナルノチアル。

政府ノ管掌スヘキ被保險者ハカウシタ方法ヲ極メテ都合カヨク醫療ヲ受ケ得ルコトトナツタカ、却說、健康保險組合ノ醫療組織ハ如何ニスレハヨイカ。之ハ組合ノ規約ノ中ニ定メラレネハナラヌコトニナツテキルカ、ソノ取極メ方ノ如何テハ組合ノ保險經濟ヲ脅カスコトトモナリ又組合員タル被保險者ノ診療成績ヲ惡化スルコトトモナルテアラウ。從テ組合トシテハ大ニ前後ノ關係ヲ考慮シ可及のカウシタ弊害ヲ避クル方法ニ出ルヤウニセネハナルマイ。而シテ我カ日本醫師會トシテハ全國ノ醫師ヲ統制シテキル關係上醫師ノ立場ヨリ亦之カ對策ヲ講シテオク必要カアルノチ、過

日招集シタ本會第四回定時總會テ「健康保險組合ノ醫療組織ニ關スル件」ヲ協議事項トシテ一ノ申合決議トシタノチアル。其内容ハ大體左ノ通りテアル。

健康保險組合ノ醫療組織ニ關スル件

- 一 健康保險組合カ團體自由選擇主義ニ依リ療養ノ給付ヲ爲サムトスルトキハ政府ト日本醫師會ト協定セル事項ニ準シテ之ヲ爲スコト一工場又ハ一作業場ニ多數ノ被保險者アル場合ハ醫師會ニ於テ當直醫ヲ置ク等ノ便宜ヲ計ルコト
- 二 健康保險組合カ直營ノ病院等ヲ有スル場合ニ於テ其ノ被保險者ニ對シテ團體自由選擇主義ヲ認ムルトキハ其ノ診療費ハ醫師會報酬規定ノ二割乃至三割減ヲ以テ之ニ應スルコト
前項ノ被保險者多數ナル場合ニハ健康保險組合ト協定シテ一定ノ人頭手當式ニ依ルチ妨ケサルコト
- 三 健康保險組合ノ被保險者中ニ通勤者ト寄宿者トアリテ其ノ療養給付費ヲ人頭手當式ニ依リ協定シタル場合ハ醫師會ニ於テ工場又ハ作業場ニ相當診療ノ施設ヲ爲スコト
- 四 健康保險組合カ土地ノ狀況ニ依リ團體自由選擇主義ニ依ル能ハサルタメ囑託醫ヲ置ク場合ハ其ノ人選並ニ報酬ニ關シテハ醫師會之カ協議ノ衝ニ當ルコト
- 五 健康保險組合ニ於テ診療施設ヲ有シ其ノ醫務ヲ醫師會ニ委囑シタル場合ハ之ニ應スルコト其ノ經費ニ關シテハ別ニ協定スルコト
- 六 健康保險組合ノ被保險者療養給付費ハ保險組合ヨリ日本醫師會又ハ道府縣醫師會ヲ經由シテ支拂フモノトスルコト

今、コノ申合事項ニ就テ多少ノ説明ヲ加ヘテ組合當事者ノ參考ニ供シタイ。先ツコノ申合事項ニ關ハレテキル團體自

由選擇主義トイフ文字ノ意味ヲ明カニシテオク必要カアラウト思フ。
 凡ソ診療ハ醫師ト患者トノ相互信任ニ終始スヘキモノテ、現ニ「患者カ自ラ信任スル醫師ノ門ヲ叩クコトハ治療上ノ
 効果ヲ半ハ收メタノモテアルトイフ」諺モアル位ア、團體自由選擇主義ナルモノハ竟舉此諺ヲ制度化シタモノトモ云
 ヒ得ルノテアル。被保險者ニ醫師ヲ選擇シ得ル自由ヲ認ムルニ當リ如何ナル範圍トスヘキカ、之ニハ種々ノ見方モア
 ラウカ、事情ノ許リ限リハ可及的廣イ範圍トスルノカ被保險者ニトツテ至極便宜テ且利益テアルコトハ言フ迄モナ
 イ。而シテコノ自由選擇ニ於ル方式ニハ二三種アルカ、團體自由選擇主義ナルモノカ最モ理想的ナ方式テアルト信ス
 ル。之ハ被保險者（政府又ハ健康保險組合）ト醫師會ト契約シ、被保險者ノ診療ハ醫師會ヲ引請ケ、會員タル醫師カソ
 ノ實務ヲ擔當スルトイフ仕組ア、之ヲ被保險者ノ側ヨリ云ヘハ、醫師會員タル醫師ノ中ニ就テ自ラ好ムトコロノ醫師
 ヲ選擇シテ診療ヲ受ケ得ルトイフ仕組ナノテ、被保險者カ自分ノ勤ムル工場ニ於テ負傷シヤウカ、又、自分ノ住所テ
 發病シヤウカ醫師ノ選擇上ノ自由カナイコトニナルノテアル。カウシタ方式ノ下ニ行ハルル診療ノ報酬ハ如何ニシテ
 授受サレルカト云ヘハ、被保險者ハ被保險者一人當リ一年幾何トイフ一定額ヲソノ管掌スル被保險者ノ總數ニ乗シタモ
 ノヲ醫師會ニ支拂ヒ（之ヲ人頭手當式ト云フ）醫師會ハ診療ヲ爲シタ會員ヨリ提出シタ一定ノ請求書ニ付能ク審査ヲ
 遂ケ、ソノ料金を點數ヲ表示セシメタ各自ノ得點總數ニ按分シテ公正ニ報酬ヲ分配スルノテアル。（之ヲ點數計算ニ依
 ル動勢手當式ト云フ）從テ被保險者トシテハ組合ノ豫算上支拂フヘキ報酬ニ就テハ何等不安ノ念ニ驅ラルル餘地セナク
 醫療上ノ監督モ直接必要テハナクナルノテ夫タケ手數カ掛ラヌノテアル。醫師會トシテハ受人レタ報酬ヲ公正ニ分配
 スルト同時ニ自己ノ責任トシテ醫療上ノ監督ニ當ルノテアル。新様ナ方式ハ本邦獨特ノモノテ、之ハ醫師會ノ成立上
 事情ヲ異ニシテキル歐米先進國テハ行ハレ難イノテアル。我國ノ醫師ハ法律上凡テ醫師會ニ加入スルコトヲ強制セラ
 レ、ソノ醫師會モ亦法律上設立ヲ強制サレテキル公法人テアルカラテアル。換言スレハ、健康保險ノ醫療組織トシテ

最モ理想的ナ方式トシテ謳ハレテキル團體自由選擇ナルモノハ我國ノ醫師會ニ於テ一大知己ヲ見出シタコトニナル譯
 テ政府モ此理由ヨリ自ラ管掌スル被保險者ノ診療ニ關シ此主義ヲ採用シテ日本醫師會ト契約ヲ締結スルコトニナツタ
 ノテアル。世間テハ團體自由選擇主義ナルモノハ、被保險者カ健康保險組合ヲ作り、ソノ組合カ自由ニ醫師ヲ選擇シテ
 囑託醫トスルモノタトイフヤウニ考ヘテキル向モアルヤウタカ、之ハ前叙ノ次第ヨリ全然誤解ニ過キヌコトカ明白ア
 フラウ。

團體自由選擇主義ナルモノノ梗概ヲ説明シタノテ、之ヨリ申合事項ニ關スル說明ニ進ムコトニスル。

- 一 健康保險組合カ團體自由選擇主義ニ依リ療養給付ヲ爲サムトスルトキハ政府ト日本醫師會ト協定セル事項ニ準
 シテ之ヲ爲スコト一工場又ハ一作業場ニ多數ノ被保險者アル場合ハ醫師會ニ於テ當直醫ヲ置ク等ノ便宜ヲ計ルコ
 ト

元來、健康保險ノ被保險者ノ立場ニ就テ考フルトキハ同一ノ義務ヲ負フ以上同一ノ權利ヲ享クヘキモノテアル。政府
 ノ管掌スル被保險者ニ就テハ團體自由選擇主義ニ依リテ被保險者ニ醫師選擇ノ自由ヲ可及的廣ク認メタ以上ハ、健康
 保險組合ノ組合員タル被保險者ニ就テモ或ハソノ自由選擇ノ範圍ヲ局限スルトカ、若クハ殆ント全クソノ自由ヲ認メ
 ヌトイフヤウナ方式ハ公平ノ觀念ニ反スルノテアルトイヒ得ルノテ、健康保險組合トシテハ政府ト同様、矢張り團體
 自由選擇主義ニ則ツテ行クコトカ被保險者ノ利益ヲ圖ルト共ニ組合自身ノ便宜ニナルコトテアルト思フ。仍テ健康保
 險組合ニ於テモコノ主義ヲ採用サルヤウニシテ欲シイ。ソノ場合ニハ日本醫師會若クハ道府縣醫師會ト契約シテ行
 クコトニナルノテアルカ、ソノ約款ハ可及的政府ト日本醫師會トノ間ニ締結サレタモノニ準據シテ行クコトカ面倒モ
 ナク諸般ノ關係上頗ル便宜テアルト思フノテアル。今茲ニ政府對本會ノ契約ニ準據スルトイフノハ、

(イ)醫師ノ選擇ニ就テハ……組合員タル被保險者カ疾病又ハ負傷ノ爲メ療養ノ給付ヲ受クルニ際シ、所轄健康保險

署ノ管轄区域内ナラハ何レノ保險醫タルヲ問ハス、自己ノ信賴スル醫師ヲ選テ診療ヲ受クルコトカ出來ルシ、健康保險署ノ管轄區域ヲ異ニスル區域内ニ住所ヲ有ツテキル場合テモ亦同様ナ手續ヲトルコトカ出來ルノテアル。例ヘハ被保險者ノ居住地カ東京市内テ勤務先——工場カ郡部ニアルトイフヤウナ場合ハ勿論ノコト、居住地カ東京府下テ勤務先カ神奈川縣下ニアル場合ニハ、工場所在地ノ醫師ニ就テモ診療ヲ受ケ得ルシ、又、居住地ノ醫師ニ就テモ診療ヲ受ケ得ルノテアル。而シテ被保險者ノ診療ヲ擔當スル醫師會員ハ保險醫トシテ皆一定ノ表札ヲ掲ケルコトニナツテキルカラ、被保險者ハコノ表札ヲ掲ケテキル醫師ヲ自由ニ選擇シ得ルノテ、竟舉、現在ノ一般開業醫ニ就テ診療ヲ受クルノト何等異ル所ハナイノテアル。但タ入院ヲ要スル場合ニハ勝手ニ選擇ヘルコトハ出來ナイ醫師會ノ指定シタ病院ニ入院セネハナラヌ。

(ロ) 診療契約ヲ爲スニハ……健康保險組合カ政府ト日本醫師會トノ間ニ締結セル契約ト同一ノ條件ヲ承認スレハ、工場所在地ノ道府縣醫師會ト交渉シテ契約ヲ締結スルコトカ出來ルシ、又ハ日本醫師會ニ交渉スルコトモ差支ナイカ、保險醫個人ニ付テハ何等交渉ノ必要ナク又郡市區醫師會ニモ交渉スルコトヲ要シナイ。

(ハ) 診療報酬額……政府ト日本醫師會トノ間ニ契約シタ診療報酬額ハ被保險者一人ニ付一ケ年七圓四十二錢六厘七毛宛トシ被保險者カ負傷又ハ疾病ノ場合百八十日間診療ヲ受ケ得ルモノテアル。尤モ被保險者健康ニシテ疾病等ニ罹カラサル場合テモ其ノ一ケ年分ノ金額ハ支拂ハネハナラヌ。此ノ一人當リノ金額ハ種々ノ統計ニ基イテ算定サレタモノテ、診察・藥劑・手術・處置料ハ勿論、入院料ヲモ含ムテキルノテアル。

被保險者ノ診療日數百八十日ヲ超エ其負傷又ハ疾病カ業務上ノ事由ニ基因シ工場法ニ依リテ診療ヲ繼續スルノ必要アルヤウナ場合ハ普通診療費ヨリ三分ノ一ヲ減シタル額ヲ以テ診療ヲ爲スコトニナツテキル。

(ニ) 診療報酬支拂方法……健康保險組合ハ其組合員タル被保險者ノ毎月末日現仕ノ員數ニ七圓四十二錢六厘七毛ノ

十二分ノ分一ヲ乘シタル額ヲ契約シタ當該醫師會ニ支拂フコトニナル。此ノ場合ハ被保險者ノ診療日數ノ多少ニ保ハラヌノテアル。

而シテ一工場又ハ一作業場ニ比較的多數ノ被保險者カアリ……義務ノ性質上疾病率カ比較的高イヤウナ場合ニハ、醫師會ニ於テ當直醫ヲ常置シテソノ便宜ヲ圖ルコトニスル。之ハ被保險者タル組合ニトツテモ被保險者ニトツテモ頗ル好都合テアルト考ヘル。ソノ費用ハ勿論醫師會ノ負擔ニ屬スルノテアル。今、左表ヲ參考セラレナハ一層經理上ノ損失カ明白ニナラウ。

健康保險組合患者平均數

人員	醫師拂一年療養給付費	治療延日數	一日患者平均數	入院延日數	外來患者一日平均數
三百人	二、二二八、〇一	五、一九〇	一四、二	三一、一	一三、三七
五百人	三、七一一、三五	八、六五〇	二二、七	五一、九	二二、二八
七百人	五、一九八、六六	一一、一一〇	三三、一	七二、六	三一、一八
千人	七、四二六、七〇	一七、三〇〇	四七、四	一〇、三八	四四、五六
千五百人	一一、一四〇、〇五	二五、九五〇	七一、〇	一、五五七	六六、八二
二千	一四、八五二、四〇	三四、六〇〇	九四、六	二、〇七六	八九、一二

〔備考〕一 醫師拂療養給付費一人當年額七圓四十二錢六厘七毛トス

一 診療日數ハ一人一ケ年平均一七日トス

一 入院率ハ百分ノ六トス

二 健康保險組合カ直營ノ病院等ヲ有スル場合ニ於テ其ノ被保險者ニ對シテ團體自由選擇主義ヲ認ムルトキハ其ノ診療費ハ醫師會報酬規定ノ二割乃至三割減ヲ以テ之ニ應スルコト

前項ノ被保險者多數ナル場合ハ保險組合ト協定シ一定ノ人頭手當式ニ依ルヲ妨ケサルコト

健康保險組合ニ於テ直營ノ病院ヲ有シテキルトキハ、被保險者ハ其病院專屬ノ醫師ニ就テノミ診療ヲ受ケ得ルコトニナルノテ夫レタケ醫師ノ選擇上自由ヲ認メラレヌコトニナル。仍テ病院ヲ直營スル組合テモ被保險者ノ便宜ヲ圖ル見地ヨリ團體自由選擇主義ヲ認ムル必要カ生シテ來ルカモ知レヌ。サウシタ場合ニハ其ノ診療費ハ一々勤勞ノ名寡ニ應シテ支拂フコトモアラウカ、カウシタ場合ニハ醫師會ハソノ定メテ居ル普通ノ報酬規程ニ依ル額ノ七掛乃至八掛テ診療ヲ引請クルノテアルカ、此ノ場合ノ報酬ハ診療ヲ爲シタ醫師ノ提出ニ係ル請求書ヲ一括シテ醫師會ヨリ組合ニ請求スルコトニスル。然シコノ件數ニ依ル勤勞手當式ハ組合ノ豫算ニ不安ヲ與フル危險（豫算超過等ノ如キ）カナイトモ限ラヌ。從テ疾病率ノ比較的少イトイフ見込ノアル組合ナラハ毎ニ豫算内テ切盛リスルコトモ出來ヤウカ、然ラサルモノテハコノ方式ヲ採用シ得ナイ場合モアルコトアラウ。仍テ第二項ノ方法ニ依ルコトモ必要トナルテアラウ。此場合ノ報酬支拂方法ハ「一」ト同様ニシ、ソノ報酬額ニ付テハ別ニ協定スルコトニスル。

三 健康保險組合ノ被保險者ニ通勤者ト寄宿者トアリテ其ノ療養給付費ヲ人頭手當式ニ依リ協定シタル場合ハ醫師會ニ於テ工場又ハ作業場ニ相當診療ノ施設ヲ爲スコト

之ハ「一」ノ場合ト略ホ同様ヲ換言スレハ「一」ヲ具體化シタ場合ノ一例トモ云ヒ得ルノテ、組合カ大工場ニ勤務シキル多數ノ組合員ヲ以テ被保險者トシ、而シテ其中ニハ寄宿舎ニ住ンテキルモノモアリ、又通勤スルモノモアルトイフ場合ニハ、トウシテモ組合專屬ノ少數醫師ニ就テノミ診療ヲ受ケシムルトイフ譯ニハ行カヌ。矢張り團體自由選擇主義ニ依ルノカ利益テアリ且好都合テアル。コノ見地ヨリ組合ト醫師會トノ間ニ「人頭手當式テ診療ヲ引請クル契約」カ成立シタ場合ニハ、醫師會トシテハ先ツ寄宿舎ニ住ンテキル被保險者ノタメニモ勿論必要タカ、一般的ニ工場又ハ作業場ニ相當ノ診療機關ヲ設クル必要カアルカモ知レヌ。コノ場合ニハ醫師會ノ費用テ之ヲ設クルコトモ妨ケヌトイフ意

味ニ外ナラヌ。

四 健康保險組合カ土地ノ狀況ニ依リ團體自由選擇主義ニ依ル能ハサルタメ囑託醫ヲ置ク場合ハ其人選並ニ報酬ニ關シテハ醫師會之カ協議ノ衝ニ當ルコト

人里離レタ鑛山等ノ如ク工場ヤ作業場ノ附近ニ醫師カ少ク、從テ組合員タル被保險者ニ於テ診療ヲ受クルニ不便ヲ感スル場合モアラウ。カウシタ場合ニハ團體自由選擇主義ハソノ組合員ニトリテハ有名無實ニナルカモ知レヌ。仍テ組合專屬ノ囑託醫ヲ指定シテ診療手續上遺憾ナキヤウニ豫メ取極メテオク必要カ生スルカモ知レヌカ、コノ囑託醫ノ人選並報酬等ハ組合ト醫師會トカ協議スルコトハ相互ノタメニ便宜テアル。組合トシテハ先ツ囑託醫採用上ノ煩累ヲ避ケ得ルト共ニ例ヘハ假ニ後日問題ノ起ツタ場合ニ本人ニ直接交渉スルコトヲ不便トスル場合モアラウシ、醫師會トシテハ常ニ本人ヲ監督スル地位ニ立チ、又本人トシテハ組合ニ對スル問題ノ解決ヲ醫師會ノ手ヲヤツテ貰フコトニスレハ三方都合カヨイコトニナルノテアル。

五 健康保險組合ニ於テ診療施設ヲ有シ其ノ醫務ヲ醫師會ニ委囑シタル場合ハ之ニ應スルコト其ノ經費ニ關シテハ別ニ協定スルコト

之ハ略ホ「四」ノ場合ト同様テアルトモ云ヒ得ルカ、組合ニ於テ診療機關ヲ設ケテキルカ、ソノ人的設備ヲ缺イテキル場合モアラウ。ソコテ其醫務ニ就テハ醫師會ニ一任スルコトヲ便宜トスル場合モアルノテ、カウシタ事項ヲ想定シタノテアル。

六 健康保險組合ノ被保險者療養給付費ハ保險組合ヨリ日本醫師會又ハ道府縣醫師會ヲ經由シテ支拂フモノトス之ハ殆ント説明ヲ要セヌヤウテ、團體自由選擇主義ヲ採用スル以上ハ當然ノコトテアルカ、醫師會トシテハ如何ナル場合テモ醫療監督ノ責任アリ、且ツ報酬ハ飽クマテ簡便ニシテ且ツ公正ナル方法ヲ分配スルコトカ最モ必要ナルカ故

ニ、組合トシテモ醫師會トシテモ本人ヘノ直接支拂ヲ避クルコトニシタイノテ「注意」ヲ惹クタメニ特ニ數ニ舉クタ
一項目テアル。

十八 日本醫師會ト診療契約締結ノ健康保險組合 (日本醫師會)

備政...ハ人頭手當式ニ依リ契約シタルモノ
考時...ハ時價式ニ依リ契約シタルモノ

番號	組合名稱	電話番號	所在地	組合理事長	契約期間	被保險者數	摘要
一	海軍共濟組合	銀 四、〇七	海軍省內	山梨勝之進	自一月一日 至三月卅一日	三、〇〇〇	時
二	東京電燈健康保險組合	銀 四、四八	芝罘田本郷二二	若尾 璋八	"	三、〇〇〇	政
三	共同印刷健康保險組合	小 〇、〇〇	小石川久堅町一〇八	吉谷 專吉	"	一、〇〇〇	政
四	芝浦製作健康保險組合	高 三、八〇	芝金杉新濱一	關口 眞靜	"	一、〇〇〇	政
五	藤倉電線健康保險組合	本所 一、二二	深川平久二ノ六	松本 留吉	"	一、〇〇〇	政
六	築地活版健康保險組合	京 二、六	京橋築地二ノ一七	大澤 長橋	"	一、〇〇〇	政
七	日本電氣株式會社健康保險組合	高 三、〇〇	芝三田四國二	大畑 源一	"	一、〇〇〇	政
八	日本光學健康保險組合	高 三、三	芝三田豐岡一三	堀 豐太郎	"	一、〇〇〇	政
九	東京瓦斯電氣工業健康保險組合	高 一、六	府下入新井不入斗一〇〇	横 濱 俊	"	一、〇〇〇	政
一〇	精工會社健康保險組合	本所 一、〇六	本所柳島二六	篠原 三千郎	"	一、〇〇〇	政
一一	汽車會社支店工場健康保險組合	本所 二、二五	本所錦糸一四七	佐々木 和三郎	"	一、〇〇〇	政
一二	沖電氣株式會社健康保險組合	高 二、〇〇	芝田町四ノ二	井上 貞治	"	一、〇〇〇	政
一三	凸版印刷健康保險組合	下 二、九	下谷二長町	黒瀬 正彌	"	一、〇〇〇	政
一四	富士電機會社健康保險組合		神奈川縣田島町	梶山 秀男	"	一、〇〇〇	政

一五	東京モスリン龜月健康保險組合	墨 一、〇七	府下後戶	宇野 範一	自一月一日 至三月卅一日	三、〇〇〇	定
一六	東京鋼材健康保險組合	本所 一、二五	府下大島六ノ五〇	藤村 善	"	四、〇〇〇	政
一七	三田土健康保險組合	墨 三、七〇	本所中ノ郷業平四	田崎 忠恕	"	四、〇〇〇	政
一八	日清印刷健康保險組合	牛 二、四〇	牛込櫻町七	吉田 秀人	"	七、〇〇〇	政
一九	大日本麥酒香妻橋工場健康保險組合	墨 一、八	本所中之郷瓦町一	三宅 重孝	"	四、〇〇〇	政
二〇	東京モスリン香燭健康保險組合	墨 三、九	府下香燭請地	杉本 徳三	"	三、〇〇〇	定
二一	日清紡織本社工場健康保險組合	墨 二、三九	府下鶴月二ノ七八	深川 家保	"	四、〇〇〇	定
二二	大日本麥酒日黒工場健康保險組合	高 一、五〇	府下目黒三田二四七	永井 照八	"	六、〇〇〇	政
二三	日清紡織株式會社西新井工場健康保險組合	千住 三、七	府下南足梅島栗原	山田 克吉	"	一、七〇〇	定
二四	富士製紙健康保險組合	京 一、七	京橋三十間堀一ノ一	關 定治郎	"	一、〇〇〇	政
二五	大日肥王子工場健康保險組合	小 一、七	府下王子一、七〇〇	藤田 貫治	"	一、〇〇〇	定
二六	東京モス金町健康保險組合	新宿 三、六	南葛金町	熊崎 健一郎	"	一、〇〇〇	政
二七	時事健康保險組合		麴町區八重洲町一ノ一	石井 光次郎	"	四、〇〇〇	政
二八	東京朝日健康保險組合		麴町區有樂町二	西久保 弘道	"	一、五〇〇	政
二九	東京市健康保險組合 (東京府西多摩郡、北多摩郡、山梨縣北都留郡、同東山梨郡内ノ百五十三名、必ス本會ノ證印アルモノニ限ル)		市役所内		"	一、五〇〇	政
三〇	日清紡織株式會社高岡工場健康保險組合		富山縣射水郡横田村	西村 信雄	"	六、九〇〇	定
三一	日清紡織株式會社濱松工場健康保險組合		靜岡縣濱名郡北濱村貴布	尾崎 憲三	"	五、七九〇	定
三二	日清紡織株式會社名古屋工場健康保險組合		名古屋南區豐田町四ノ割		"	三、〇五七	定

健康保險實務要略

三三	日清紡織株式會社岡崎工場健康保險組合			
三四	日清紡織株式會社京都工場健康保險組合			
三五	栗原紡織健康保險組合	栗原	三〇七	
三六	株式會社明電舎健康保險組合			
三七	パイロット健康保險組合	小石川	四八六	
三八	日本紙業總有工場健康保險組合			
三九	新瀨鐵工所新田工場健康保險組合			
四〇	三井三池健康保險組合			
四一	東洋モスリン練馬工場健康保險組合			
四二	三共健康保險組合			
四三	日本製麻赤羽健康保險組合			
四四	淺野セメント東京健康保險組合			
四五	富士瓦斯紡織本庄工場健康保險組合	埼玉	本庄町	
四六	富士瓦斯紡織小名木川工場健康保險組合	埼玉	本庄町	
四七	富士瓦斯紡織大阪工場健康保險組合	大阪	府下大島町	
四八	富士瓦斯紡織大分工場健康保險組合	大分	大分市	
四九	富士瓦斯紡織中津工場健康保險組合	中津	大分縣中津町	
五〇	富士瓦斯紡織川崎工場健康保險組合	神奈川	川崎市	
五一	富士瓦斯紡織保土ヶ谷工場健康保險組合	神奈川	保土ヶ谷町	

受知縣額田郡岡崎村針崎	西村傳八	三九〇	
京都市上京區岡崎圓勝寺	鈴木誠一		
本所區柳島橫川町一〇	栗原幸八		
府下大崎町居木橋二七六	高橋幸熊	自一月八日	
府下巢鴨町平松	渡邊旭	自一月一日	
府下鶴有村		自三月廿一日	
府下蒲田町	山口八次		
大牟田市有明町	井本定祐		
府下下練馬村	望月清		
府下北品川宿二八六	堀田直道		
府下岩淵町	堀内榮二		
深川清住町	川上高帆		
埼玉縣本庄町	登山武市郎	自一月十四日	
府下大島町	辛島寛太	自三月廿一日	
大阪府	岡田魁介		
大分市	植田和作		
大分縣中津町	吉川房夫		
神奈川縣川崎市	佐々山寛一		
神奈川縣保土ヶ谷町	木村平太郎		

五二	富士瓦斯紡織小山工場健康保險組合			
五三	富士瓦斯紡織名古屋工場健康保險組合			
五四	富士瓦斯紡織岐阜工場健康保險組合			
五五	東洋モスリン鶴戶工場健康保險組合			
五六	土佐セメント健康保險組合			
五七	ライオン齒磨工場健康保險組合			
五八	王子健康保險組合			
五九	東京毛織大井健康保險組合			
六〇	相模紡織平塚工場健康保險組合			
六一	日本モスリン健康保險組合			
六二	東京毛織南千住健康保險組合			
六三	專賣局共濟組合	牛込	一四〇	
六四	マツダ健康保險組合			
六五	秀英健康保險組合			
六六	大同電力健康保險組合			
六七	名紡健康保險組合			

靜岡縣小山町	後藤正憲		
名古屋市外枇杷島	竹内仁一郎		
岐阜市外	山田榮一		
府下鶴戶町	武藤貞雄		
高知市湖江町	辻琢磨		
本所外手町	小林富次郎		
郵船ビル内	高島菊次郎		
府下大井町	永井富清		
神奈川縣平塚町	國米英作		
府下瀧之川町瀧ノ川一五	龜田政末	自一月一日	
五六	南千住町地方橋場	遠藤貞徳	自一月廿五日
大手町一丁目	今北策之助	自三月廿一日	
川崎市堀川町七二	津守豐治	自一月一日	
牛込市ヶ谷加賀町一ノ三	杉山義雄	自三月廿一日	
大阪東高麗橋三	増田次郎		
名古屋市南八熊町上新谷三六八上川勘次郎			

保險部醫療課長

健康保險署長宛

大正十五年十一月十八日

保發第二〇九號

第四章 健康保險醫療關係

十九 醫師齒科醫師藥劑師等ノ團體ト意思疎通ニ關スル件

政府ハ本月四日附テ以テ政府カ管掌スル被保險者ノ診療ニ關シ日本醫師會ト契約締結相成候モ診療ノ完整ヲ期スルタメ別ニ官公立府醫院ニ對シテモ目下診療契約ノ協議中ニ有之猶ホ齒科診療ニ關シテハ日本齒科醫師會、處方箋ニ依ル藥劑ノ支給ニ關シテハ日本藥劑師會ト交渉開始致シ居リ候由シテ保險給付實施上遺憾無キヲ期スル爲メニハ政府ハ此等各方面トノ診療契約ヲ完成スル外各健康保險署ト道府縣ニ於ケル此等ノ團體ト常ニ協調ヲ保チ相提携シテ施行ノ圓滑ヲ圖ルコト必要ニ候條此等ノ團體ノ道府縣並ニ郡市區役員トハ平素ニ於テ意思ノ疏通ヲ圖リ殊ニ右團體ノ會員ニ對シテ健康保險法令ノ研究ニ便宜ナラヘ且ツ法令ノ疑義等ニ對シテハ、十分ニ解說ヲ與ヘラルル様致シ度萬一此等ノ團體ト健康保險署トノ間ニ協調ヲ缺キ互ニ反噬嫉視シ爲メニ圓滑ナル遂行ヲ妨クルカ如キコトアラシカ健康保險法實施上ニ大障礙ト可相成候ニ付今後一層密接ナル連絡ヲ保チ萬遺漏ナキ様考慮相成度

第五章 健康保險ト勞働政策

一 健康保險法ニ對スル勞働團體ノ態度

1 日本勞働組合評議會

健康保險法ハ反動期ニ於ケル支配階級ノ術策ナレハ大衆ニコノ法律ノ欺瞞ヲ曝露シ、大衆ノ政治意識ノ喚起ト政治闘争ヘノ動員トニヨリ

- イ 政府及資本家ノ保險料金額負擔
- ロ 保險給付ノ増額及給付範圍ノ擴大
- ハ 保險組合ノ勞働者管理

ヲ目標トシ各地方評議會及ヒソノ所屬組合ノ手ニヨリテ大衆的宣傳ヲナスト共ニ、現行法ニ於ケル最大限度ノ要求——保險料ノ全額負擔、從來ノ共濟組合ヲ存續シ資本家ノ全額負擔——ヲナス方針ヲトツテキル。

又一面統一運動同盟、勞働農民黨ト聯絡ヲトリテ運動ヲ促進スルコトトシ、又被保險者ニヨル工場班ヲ單位トシ其ノ代表者ニヨリ地方委員會ヲ組織シ、更ニ地方委員會ヨリ被保險者全國委員會ヲ設立スルコトニ努力シテキル。

次ギニ其ノ機關紙「勞働新聞」ヨリ反對論點ヲ抄録シテ置ク。

- 一 費用負擔ノ勞資折半ハ資本家ノ當然ノ責任ヲ勞働者ニ轉嫁シタモノテアル。
- 二 百八十日ノ扶助打切ノ限定ハ勞働者ノ最モ困難スル場合ニハ保證セサルコトヲ規定スルモノテアル。
- 三 休業手當日額報酬ノ六割トハ働イタ日數カラ還算スルモノナレハ勞働者ノ生活ヲ生キルタケニ切り下ケヤウトスルモノテアル。

- 四 本法ハ工場規定共濟規定ノ改悪ヲ誘致スル。
- 五 保險組合ハ從來ノ共濟組合ノ主タル事業ヲ奪フコトナリ勢ヒ共濟組合ハ解散サレテ保險組合ニ合體サレル。カクテ保險組合ハ法律ノ庇護ノ下ニ勞働者ノ自發的意思ヲ完全ニ抑壓シ、専私的ナ組織トナリソノ上年收千二百圓以下ノ職員モ抱擁スル故ソノ協調的性質ハ一層強クナル。
- 六 共濟組合又ハ共濟的目的ヲ有スル勞働組合カ解體セララルコトハ勞働組合ノ破壊テアル、又莫大ナ共濟組合基金ヲ有スルモノノ基金ハ勞働組合ノタメニ特ニ混業資金ノタメニ使用スルコトカ出來ヌ。

2 日本勞働總同盟

所謂現實政策主義ヲ以テ隨時隨所ニ適宜ノ方法ヲ講スル方針ナルカ如クテアル。保險料ノ點ニ於テハ其高率ヲ認メ、其ノ全額ハ出來得ル限り資本家ノ負擔タラシムヘシトノ意見ナレトモ其ノ交渉上ニ於ケル言辭トシテハ露骨ニ之ヲ表明スルコトヲ避ケテキル。

而シテ關西ニ於ケル多クノ工場ニアツテ工場ノ狀態ニ適應シテ適宜ノ方法ヲ用ヒ、差詰メ勞働者負擔保險料(百分ノ二)ヲ百分ノ一(即チ資本家百分ノ三)ニ減額スルコトニ努メツツアルモノノ如クテアル。

尙ホ參考ノ爲メ總同盟大正十五年度全國大會ニ於テ、大阪聯合會ヨリ提案可決セラレタル「健康保險法中改正案ニ關スル件」ヲ見レハ左ノ如シ

現行健康保險法中改正若クハ添削スヘキ要項ハ大體左ノ五項テアル

- 一 官業勞働者ノ特別取扱ハ官民勞働者ノ接觸ヲ不可能ナラシメントスル政府ノ勞働政策ナルヲ以テ不可ナリ
- 二 工場法施行令ニヨル公傷病扶助ハ從來工場主ノ負擔ナリシニ之ヲ勞働者モ其一半ヲ負擔スル保險料ヨリ出スコトハ勞働條件ノ低下テアル。故ニ業務上ノ傷病ニ關シテハ工場主責任ヲ負フ旨ノ特別規定ヲ設クヘキテアル。然

ラサレハ工場法ノ改正モ畢竟勞働者ニ對スル政府ノ食言テアル。

- 三 本法カ社會政策的立場ヨリ立法サレタル以上其ノ費用ノ負擔ハ當然勞働者、資本家、國家ノ三者カ三分スルコトヲ適當トスル。現行法ノ費用總額ノ十分ノ一、被保險者一人當二圓以下ハ過少テアル(尙ホ此場合勞働者ノ負擔ヲ皆無ニスヘキハ原則テアルケレトモ現實政策ノ立場ヨリ三分說ヲ主張スル)。

- 四 保險組合ノ被保險者側理事ハ勞働組合ノ存在スル所テハ當然該組合ノ推薦ニ俟ツヘキテアル。第一次第二次第三次健康保險審査會ノ委員モ共ニ政府ノ拔擢アナクシテ勞働組合カラノ推薦ニヨルヘキテアル。

- 五 給付額ノ増加ニ付テハ細目ニ亘ルモ少クモ現在ノ官業勞働者ノ條件ト同一ニ改正スヘキテアル。

附

尙ホ健康保險ノミヲ持ツ社會立法ハ跛テアル。當然我々ハ之ニ次テ失業保險、養老保險、癩疾保險等ノ立法ヲ要求スヘキテアルト思フ。云々。

3 日本勞働組合同盟

健康保險法カ欺瞞政策ナリト批難スルコトハ他ノ勞働團體ト同一テアル。

而シテコレカ一般的對策トシテ表明シテ居ルモノハ次ノ如クテアル。

- 1 健康保險組合ノ作レル所ハ成ルヘク健康保險組合ニヨリ、此ノ健康保險組合内部テ資本家ト抗爭スルコトニヨツテ勞働者ノ立場ヲ有利ニスルコト
- 2 勞働者ノ生活低下ニ對シテハ、資本家ニ全責任ヲ負ハシメ、賃金値上、其他ノ待遇改善ヲナサシメルコト
- 3 共濟組合ノ改廢ニ際シテハ、勞働者ニ有利ナル從來ノ條件ハソノ儘ニ殘スコト
- 4 積立金ノ拂戻シニハ反對シ、資本家ニ補助セシメテ、之ヲ消費組合運動ノ基金トシテ勞働者ノ管理ニ移スコト

5 地方的ニ勞働者ノ連絡ヲ取り地方協議會ノ運動ヲ起スコト
 6 之ヲ全國的ニ連絡セシメテ、政治運動ト連絡セシムルコト
 而シテコノ積極的活動ニ入ル前提トシテ左ノ諸點ヲ調査シテ對策ヲ講スルコトトシテキル。

- 1 會社ト從業員ノ負擔ノ狀態ハ如何
- 2 健康保險組合設置ノ可能性ノ有無
- 3 健康保險組合アレハ、ソコニ於ケル議員ノ勢力關係如何
- 4 保健醫ハ適當ナリヤ否ヤ
- 5 健康保險法ニ對スル會社ノ態度
- 6 共濟會其ノ他ノ慰安施設如何
- 7 從來ノ工場法職業法ニヨル扶助規定トノ關係
- 8 一般從業員ノ態度

4 日本勞働組合總聯合

評議會ト總同盟トノ折衷ト見テ然ルヘキモノニシテ所屬各組合ノ態度ハ必シモ一定セス、唯勞働者ノ負擔ヲ可及的ニ減少セシメルコト、及ヒ勞働組合ヲ去勢セシメントスル法律ニ反對ノ態度ヲトルヘキコト(關東聯合會ノ態度)ヲ標語トシテキル如クテアル、例ヘハ

東京機械工組合、池貝鐵工所ニ於テハ

- 1 保險料ノ資本金全額負擔
- 2 保險組合法反對

3 賃金値上ヲ要求シテキル

京濱勞働組合ニ於テモ

- 1 保險料金ノ資本金全額負擔
- 2 共濟組合積立金全額拂戻シヲ要求シタ

5 自由聯合

失業ニ對スル保證、病疾、負傷等ニ對スル保證ハ等シク社會保險ノ中樞ヲナスヘキモノテ失業保險ヲ缺ク健康保險法ハコノ點タケテモ不完全テアリ、ソノ高率ナル保險料ノ負擔等舉ケ來レハ不備ノ點多イ。要スルニ勞働者ニトツテ不利益テアル。加之勞働者ノ疾病、負傷等ハ失業ト共ニ當然資本金ノ、政府ノ、保證スヘキ義務テアルニ拘ラスカカル不利益ヲ法令ノ下ニ、之ヲ利用シ支配者カソノ支配ノ具ニ供シ、搾取ノ機關トスルコトヲ考ヘルナラハ眞向カラ反對スヘキモノテアラネハナラヌ。

6 海軍勞働組合聯盟

從來ノ共濟組合ヲ改正シテ共濟部ト保險部トニ事業ノ部門ヲ分チ、共濟部ノ掛金ハ從來通り辭令面ノ日給額ヨリ、保險部掛金ハ標準報酬日給額ヨリ徴收サレル。

共濟部	從來日給ノ三十日	49	當局ノ豫算
	分ノ千分ノ五十四	5	
保險部	ノ内	1,000	1,000
		1,000	

從ツテ從來ノ共濟部 $\frac{47}{1,000}$ 程度ヲ維持シ

新ニ $\frac{109}{1,000}$ ヲ徴集スル計算

組合側ニ別ニ對策ナルモノ存セス共立時報(舞鶴)モ「同法ノ合理的發達ヲ希望シ、殊ニ當事者ト協力シテソノ發展ノタメニ努力シ同法ノ根本的意義ヲ發揮スヘク努メナクテハナラヌ」ト論シテキル位テアル。

7 統一運動同盟

スローガン

- 1 保險料ノ政府及資本案ノ全額負擔
- 2 保險給付額及給料範圍ノ擴大
- 3 保險監視權ノ獲得

組織

- 1 被保險者ニヨル工場班ヲ組織單位トスル
- 2 一地方ノ工場班ヲ以テ地方同盟ヲ作ル
(地方同盟ハ地方委員會ト地方大會トヲ有ツ)
(大都市ニ於テ必要アルトコロニテハ工場班ト地方委員會トノ中間ニ地區委員會ヲ置ク)
- 3 地方同盟ノ上ニ全國同盟ヲ作ル。全國同盟、地方同盟代表者ヲ以テ構成スル全國大會ト全國委員會ヲ置ク
- 4 被保險者同盟ノ運動ニ要スル費用ハ工場班ヨリ徴收シ地方同盟ニ集中スル

實行方法

- 1 統一同盟全國委員會指導ノ下ニ、統一同盟地方委員會ハ健康保險對策委員會ヲ作ル
對策委員會ハソノ地方ノ各加盟團體ヨリ一名以上ノ委員ヲ選任スルコト
- 2 對策委員會ハパンフレット、ピラ、演說會等アラユル方法ニヨツテ大衆ノ間ニ輿論喚起ニ努メルコト

- 3 對策委員會ノ決定セル方針ノ下ニ各加盟組合ハソノ機關紙ニテ統一セル宣傳ヲ行フコト
- 4 勞働農民黨支部聯合會、本部等ニ提議シテ協力スルコト

二 健康保險爭議一斑

1 日本紙業株式會社(東京四谷元町)

關與組合 評議會出版勞働組合

職工數 一九八名(内女三二名)

原因 會社ハ保險組合ヲ組織スヘク職工ニ對シ掛金二錢五厘ノ負擔ヲ要望ス

要求 一、健康保險組合設置ニ關シ勞資協議委員會ヲ催シ保險率ヲ決定セラレタシ

二、二錢五厘ハ高率ナルヲ以テ考慮サレタシ

經過 會社ハ二錢ニ値下スル旨回答。一方内務省ニテハ會社ノ保險組合組織計畫ハ範圍遠隔ニ過クトノ理由ニテ不許可ノ意ヲアル事判明、依テ職工側ハ前要求撤回ト共ニ新ニ左記要求提出。

要求 一、健康保險料ノ資本案全額負擔

二、保險組合設置準備ニ要シタル費用ノ全額會社負擔

三、現在迄實施サレタ積立金ヲ一月一日限り全廢スルコト

四、日給一割ノ増額ヲナスコト

五、爭議費用ノ會社負擔

解決 二十三名解雇、要求撤回(保險料二錢)

2 東京鋼鐵家具工場(東京府下尾久町)

關與組合 評議會關東金屬勞働組合

職工數 二六〇名

要 求 一、健康保險組合設置要望

二、保險料ノ全額會社負擔

解 決 一、工場ニテ保險組合ヲ組織セス

二、保險署ニ於テ保險ヲ附ス

三、保險署納付掛金ハ法律ニヨリ各被保險者ニテ負擔スヘキコト

四、會社ハ從業員ノ負擔額タケ昇給セシメ事實上從業員ノ收入ニ影響ナカラシム

組合側ノ發表ノ解決條件

一、保險料ハ報酬日給百分ノ二、但シ保險料ニ相當スルタケノ臨時昇給ヲ行フ

二、コノ臨時昇給ハ年二回ノ定期昇給ト關係ナシ

三、保險給付額カ從來工場法ニヨツテ支給サレタモノヨリモ低額ノ時ハ從來ノ如ク支給ス

3 淺野セメント株式会社 (東京深川區清住町)

關與組合 評議會東京合同勞働組合

職工數 四一五名(内女三五名)

原 因 十一月二日會社ハ全職工ニ對シ保險料三錢以内ノ旨ヲ告ケ保險組合加入同意書ニ調印ヲ求メ十日迄ニ大

部分ノ同意ヲ得タルモ、組合側ハ高率ノ負擔ニ堪ヘストシテ歎願書提出、會社ハ歎願書調印者ノ大部分

ニ調印ヲ取消サシメ掛金ヲ一錢九厘ニ減シ殘餘ハ毎月ノ強制積立金中ヨリ充當スル旨回答十一月二十八

日罷業ト同時ニ左ノ要求提出

要 求 一、賃金一割値上(保險料全額ヲ含ム)

二、保險組合ハ職工ト協議ノ上作ル

三、保險給付ノ金額ヲ増ス

四、危險防止ノ設備ヲ定ム

五、負傷ノ際ハ即刻便宜ヲ取計フ

六、年二回定期昇給

七、義務貯金ハ各個人ノ通帳ニ改ム

解 決 保險料一錢六厘トシ解雇者三十六名ヲ出ス

4 旭硝子株式会社 (福岡縣戸畑市戸畑牧山)

(保險條項カ附帶條件トナレルモノ)

職工數 男一五三〇名、女六七名

爭議參加 男二八六名

原 因 職工ニ對スル割増獎勵金ノ増額ヲ發表セルニ對シコレカ増額ヲ要求セルモノ

要求條件ノ第二條ニ健康保險料ノ全額會社負擔アリ解決條件中ニハ、保險料ノ件ナシ

5 塚本硝子工場 (宮城縣仙臺市東七番町)

關與組合 評議會仙臺一般勞働組合

職工數 三五名

原因 左ノ要求提出

要求 一 健康保險料會社全額負擔

二 賃金値上一人宛十錢宛ノ事外三項

解決 健康保險料會社負擔ハ拒絕、其他ハ承認

6 旭紡績株式會社 (宮城縣名取郡長町)

職工數 男三〇〇名、女二〇〇名

關與組合 仙臺一般労働組合

原因 組合運動ヲナシタルモノ四名解雇

要求 健康保險料ノ全額會社負擔

7 海野ゼンマイ工場 (東京府下日暮里町)

關與組合 總同盟東京鐵工組合

職工數 四十名、女二名

原因 組合加入者四名ノ解雇

要求 健康保險料ノ全額會社負擔

解決 保險料ノ會社全額負擔ヲ考慮ス

8 日魯漁業株式會社 (北海道函館)

解決 一、保險料金ハ日給ノ百分ノ四トシ會社全額負擔

二、保險組合ノ設置

三、給付範圍ハ出來得ル限り擴大増加スル

9 トラスコン鋼材株式會社 (川崎市)

會社附近ニ保險爭議勃發ノ矢先評議會關東金屬労働組合カ保險問題ニ關シテ輿論喚起ニ努メタル結果會社先手ヲ打ツテ保險料全額負擔ヲ發表セルモ神奈川縣廳ノ注意ニヨリ之ヲ取消シ「日給十錢」ノ値上ヲ發表セリ因ニ此ノ値上ハ職工負擔保險料ノ約二倍ニ相當ス。

10 大和田紡績今福工場

關與組合 評議會餘江支部

職工數 三四名

原因 労働組合加盟工カ健康保險料ノ會社全額負擔要求ノ策動ヲ探知シ主謀者七名臧首

解決 勝算ナキヲ覺リ會社支給ノ解雇手當ヲ以テ解決ス

11 京濱電鐵株式會社 (川崎市)

關與組合 自治會京濱支部

原因 待遇改善

要求 各課共通ノ第三條ニ健康保險組合設置準備ノ促進

解決 一 四名解雇

二 罷業中ノ日給半額支給

三 解雇者ニ規定ノ手當及金一封支給

12 日本鑄造株式會社 (神奈川縣鶴見町)

關與組合 關東金屬勞働組合

職工數 一六二名(二二二名中)

原因 事業縮小ノタメ十五名解雇

要求 一、保險料ノ會社全額負擔

二、保險給付額ノ増加

三、勞働組合ニヨル保險管理權ノ獲得

解決 首謀者解雇、要求拒絶

昭和二年五月五日印刷
昭和二年五月八日發行

健康保險實務要鑑

東京市芝區芝公園六號地

財團法人協調會内

發行兼編輯者

橋本能保利

印刷者

東京市墨田區紀尾井町三番地
濱野英太郎

印刷所

東京市墨田區紀尾井町三番地
東京印刷株式會社墨田町出張所

發行所

東京市芝區
芝公園六號地

協調會

總管東京五三七〇圖書

發行所

東京市芝罘

聯合會

印刷所

東京市芝罘

印刷所

東京市芝罘

印刷所

東京市芝罘

東京市芝罘

國語二平 正日六日發行
國語二平 正日五日發行

東京市芝罘





561
193

